



健康に対する意識の向上を呼び掛ける里崎さん（左）ら―徳島市の新聞放送会館

## 心疾患予防テーマに座談会 里崎さん、佐田・徳島大教授ら

徳島市

心疾患の予防や医療・福祉サービスの一体的な提供をテーマにした座談会が11日、徳島市の新聞放送会館であり、官学の代表ら3人が意見を交わした。

徳島大学の佐田政隆教授（循環器内科学分野）、

県保健福祉部の鎌村好孝感染症・疾病予防統括監、プロ野球千葉ロッテの元捕手で鳴門市出身の野球解説者・里崎智也さんが参加した。

鎌村統括監は県の医療データについて▽2019年の健康寿命は男性72・1歳、女性75歳と全国的に低い▽21年の死因で循環器病はがんに次いで2番目に多い―などと説明。佐田教授は、

8月に徳島大学病院にできた脳卒中・心臓病等総合支援センターを紹介しながら、「受診が遅れたケースは多い。健康診断を受けたり生活習慣を見直したりして、早めの予防を心掛けてほしい」と訴えた。

里崎さんは「サポート体制の充実は安心感につなが

る。情報をキャッチする県民側の姿勢も大事になる」と述べ、健康に対する意識の向上を呼び掛けた。

県民の健康寿命を伸ばす目的で、県と徳島大、スイス製薬大手の日本法人ノバルティスファーマ（東京）が昨年結んだ連携協定の一環で行った。（中野愛子）